



平井權八代託

拾九

~ 13
3365
5



13
3365
5

平井権八代記巻之九



目録

一 権八ごうはち監城けんじょう不出いしで道みち了りょう事こと

并あひ平井へいせい悪行あくかうの事こと

一 権八ごうはち目王めおう風呂ふうろ寺てら小入こいり陸川りくせんの事こと

のり事のりこと

并あひ風呂ふうろ寺てらと三退さんたいの事こと

大正十年八月廿九日
本大學出版部
贈

平井権八代記巻之九

平井権八監城小出逐小車

并印井急行の事

去程小田原八代逐小の者も小出捕ら世に
居ありてしきしとて味うれなるりしとて
え兼河船を信ち度あ兼のりしとて
白杖のぬびと世を別入軍は所付りし
之も書きまうしとて諸國の四も世出ふり

む平井権八右門副 端小者女四筋有し
また船の江戸中在山の道の日暇に
とて町奉行甲斐能探ちとてとて
知しりるふ同元元五人とて肩を大き
いもりる去あしとて搦ての役人中
やしめしとてしとてしとてしとて
官小の者世平此のり平井権八が事
小のぬびと権八は監城小出逐小
川を渡りて小出とてしとてしとて

子名をとりやわたりしびりありゆふにけりしびり首
ふわきりし布と廻し道のみし中ふりしきて
おん生ふり敷ひ有り糸も子細有てあり
流浪し令子不持いそしたるしんあて有
りて半度ゆふもわち持上りけり物しこの月
もあへ何事ありし海用ししてぬつていふ
りてくは急流ふり難有ゆりなりし海にいて中
り世に彼盜賊たるひして是程人よくり第
して見ゆ糸の二つ等々常と的の物け世と

の令に赤おとしぬくし海と送る所が表とのふ
りしと知りて清毒がなるなまやとふ世なるは
合意ししうふ海とてし海と又毎日出
せし海しよき勝負もなると言ふ方お出
合ふ常とありし物もなるといへもは言は
がししは言はれぬまあともいふ方ししては
のあまが言はれぬししとては言はれぬ
糸も二匹ありし物もなるといふ方お出
なすめが思しし物もなるといふ方お出

せりて格八の母はたはらひしんは母はたはらひしん
いふふぬの倒世りしまの格八の母はたはらひしん
明かて行波るるふぬの母はたはらひしん
かゝる子ありていふしんは母はたはらひしん
しりて母はたはらひしんは母はたはらひしん
在るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
書とていふしんは母はたはらひしん
いふせんとすまはらひしんは母はたはらひしん
源氏の子は母はたはらひしんは母はたはらひしん

清久の母はたはらひしんは母はたはらひしん
ていふせんとすまはらひしんは母はたはらひしん
動氣とていふしんは母はたはらひしん
とていふしんは母はたはらひしんは母はたはらひしん
わしりていふしんは母はたはらひしんは母はたはらひしん
は徳川とていふしんは母はたはらひしんは母はたはらひしん
然るる格八の母はたはらひしんは母はたはらひしん
豊後とていふしんは母はたはらひしんは母はたはらひしん
わしりていふしんは母はたはらひしんは母はたはらひしん

形り世てい出事の一大事なり百捕世に際し
何し世よしきに在り世の事と云ふも
どし世なり集も人お書ふ世
ふも世の事なりや世の事なり
自らふ名をいふ世の事なり
百とく世の事なり世の事なり
と世の事なり世の事なり
又世の事なり世の事なり
ともえ世の事なり世の事なり

かきもり人あり世の事なり
一大小をいふ世の事なり
ふもとく天地の事なり
切に破る世の事なり
ふも世の事なり世の事なり
の世の事なり世の事なり

平井権八代記巻の九



平井権八一代龍巻の巻

目録

一 権八あし 漂浪の事

兼 舟列田丸在りて 百姓の娘

と 龍巻の巻

平井権八一代龍巻の十

権八あし 流浪の事

かきて平井権八めぐろ百五の良寺お見せりし
 后いせりしかのせん義はよく人相書うらとひつて
 歳とし々々し味有あじいひし方かたを味
 小々こゝろなをい佐川さいがわが情なさけふりしあのあ目撃めがつと
 さも退ひろりども津島地蔵つしまぢざうしとんあのあと止と
 めめななすするるししのの住ぢ居ゑのの進しんひひ江えのの去さりし
 舟ふねのの難がたくくよよりりのの小こ田た原はらとと行ゆりしし
 ののとと箱はこ根ねのの田た原はらもも人ひとおお去さりしし通とほるる
 中ちゆうももししのの後のちののままはは世よをよ指さりしし

月丘崎とて濃州郡の所を杉平丹後ちどの
四登り右同月八日箱根と四通りすよりりるが
川崎も龍崎も峠の御座るとくぬふりるさきも杉平
丹後ち復りてとる侍の御座りて濃海の方より
ころんふあちち東より一茶一杉平丹後ち東来りて
ゆが箱根の権次一代来りて付て是れゆめりて
通りりるすよりりるぬき告衆のゆめりて
しそ四通り右登りて通りりる登りて
四登りの人相書とせし今この男はさき登りの男相

四登りの平井権八とていなるあひしやせと
完子ゆき返りしゆめりてとるぬきとすゆき権八と
お控りてとるすよりりるぬき権八丹後ち復りの家
来りてゆき四登りてとるぬきとすゆき権八と
しそ四登りぬきとるすよりりるぬきとすゆき権八と
たきとて返りてとるぬきとすゆき権八と
天竺ふりてとるぬきとすゆき権八と
と此ちとて世に世のゆきとるぬきとすゆき権八と
ふりてとるぬきとすゆき権八と

可くと思ひよる世にありあはれなる
 有り又園を下り下り足はま
 伊勢ふわり序で伊勢もま
 舞別田丸生の可性あるから
 しそ人月と思ひごとくなり
 成木の光高寺といふちふれ一
 一なる小位持らぬに海めさ
 有りまか念と指あ持来して
 権入見く夜中ひく位位持の

思ひまうとく思ひ一打ふ
 ずくく遊げけりる下
 川掘て海も糸遠久四五
 連のよらまや川夏やで
 云やらや下さかふ切と
 て可性あるまうて藤の
 その外に入るに人何事一
 めんまのよりのまはれま
 呼しひたりんまはれま

もろりしき世はなごも世はあら成りし陸子器
りの有金ししもろりし世はなごも世はあら成りし陸子器
と改しつらつら世をま婦ももあやましき者
しね世を百もあしと世をしつらつら世はなごも
令子百文おしときし世はなごも世はなごも
よろあび世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
かろ世をしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
左柄ともしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも

いさしき世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
ろりし世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
娘も人有りしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
書しつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
の世の娘も人有りしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
義も人有りしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
細も人有りしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
形も人有りしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも
男も人有りしつらつら世はなごもあしと世をしつらつら世はなごも

た母をかの娘が世人が清くはらえむと格八
いふもせしむるは清くはらえむと格八
いろ／＼かき集めては又思ふに清くはらえむと格八
娘が母なるお志のびに世にえよまが母し格八が
事と母を彼の娘をまはれび倍先の格八と
むまびりりし是よりつりたまは申とぞ成あり
まよりあま思ひにるるある時娘おやれるは
い格八の者清くはらえむと格八の格八と
う格八し合ふ有母をみと格八の格八と親の格八と

あや／＼のく娘を合子と有母を清くはらえむと格八
いふもせしむるは清くはらえむと格八
いろ／＼かき集めては又思ふに清くはらえむと格八
娘が母なるお志のびに世にえよまが母し格八が
事と母を彼の娘をまはれび倍先の格八と
むまびりりし是よりつりたまは申とぞ成あり
まよりあま思ひにるるある時娘おやれるは
い格八の者清くはらえむと格八の格八と
う格八し合ふ有母をみと格八の格八と親の格八と

世海へつゝ為屋とつゝのあひ別世へつゝ

平井権八代記巻三拾一

平井権八代記巻三拾一
平井権八代記巻三拾一
平井権八代記巻三拾一
平井権八代記巻三拾一
平井権八代記巻三拾一
平井権八代記巻三拾一
平井権八代記巻三拾一



